

## 地域再生計画

1 地域再生計画の名称

おといねっふ美術工芸高等学校卒業生移住定住 U ターン促進計画

2 地域再生計画の作成主体の名称

北海道中川郡音威子府村

3 地域再生計画の区域

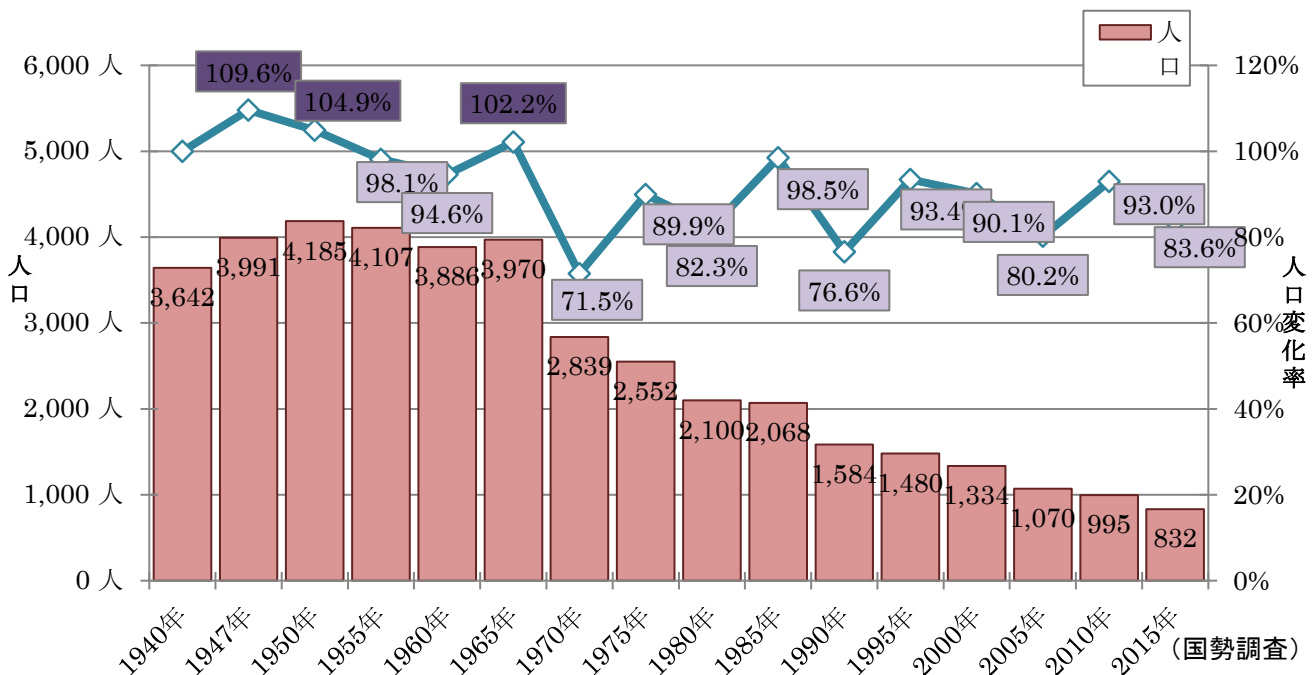
北海道中川郡音威子府村の全域

4 地域再生計画の目標

音威子府村は北海道の北部に位置し、東西ともに約 50Km で日本海、オホーツク海に到達する山間部の盆地に市街地を形成し、人口 800 人の道内最少自治体である。

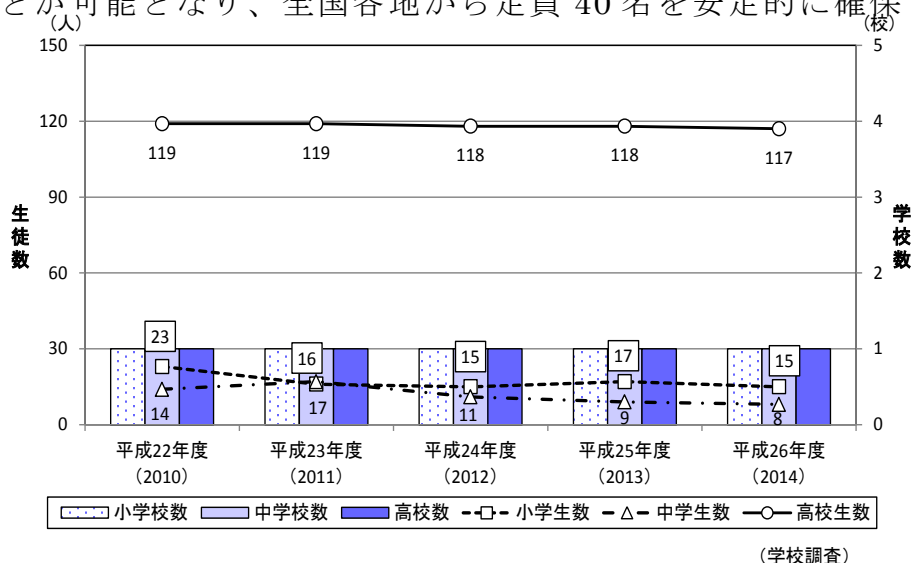
旧国鉄の宗谷線と旧天北線の分岐点として発展し、鉄道事業に関わる職員が非常に多く住み、鉄道輸送の拠点でもあることから農業を基幹産業に、林業に従事する者も多く昭和 25 年には人口 4,185 人を数えた。しかし国鉄の合理化と民営化の影響、高齢化に伴う離農が続き林業も外国産材輸入の影響を受け衰退し平成 22 年には人口 1,000 人を割り込むに至った。

**人口と人口変化率の推移**



こう言った状況の中、村立である高等学校（当時は定時制）も廃校寸前までに追い込まれたが、これを「チャンス」と捉え、昭和 53 年度より全国でも珍しい「工芸科」を設置し、地元の豊富な木材を活用した工芸授業を展開し道内各地から入学希望があり、当時の入学者定員 45 名を確保した。現在では、全寮制度のもと近代的な寄宿舍を完備し安心・安全な暮らしを保障し、校名も「おと

いねっぷ美術工芸高等学校」と改め、工芸学科を継続させながらも「美術」も学べることが可能となり、全国各地から定員 40 名を安定的に確保している。



しかし、村では「入学者」の確保に力を入れるのみで「卒業生」に対する「村で働く場の確保」には力が入っていなかったことが「人口減少」を招く大きな要因として明白であり、本村にとって長年の最大課題となっている。

「ものづくり」から「人づくり」を教育目標に木材工芸技術を習得した生徒、美術教育から「表現力」を習得した生徒を本村に定住させ、また卒業生を U ターンさせるためには「働く場の確保」「働く場がないなら創りだす」と言った発想を持ち、村が昭和 53 年度から振興してきた「木材工芸」を主に働く場をつくり、また平成 29 年度に運用を開始する「地域複合型施設（高齢者サービス付住宅施設）」で介護ヘルパー等として就労できる環境を整え、更には基幹産業である農業と卒業生が習得した「能力」を繋ぎ合わせると言った新しい働く場の創出に取り組み、卒業生を U ターンさせ定住を促進し、人口減少に歯止めをかける事を目的とするものである。

【目標数値】

	平成 29 年 3 月末	平成 30 年 3 月末	平成 31 年 3 月末
U ターンした生徒数	1	2	2
木材工芸関係・地域複合型施設事業等に起業及び就職する卒業生徒数	1	2	2
卒業生の U ターンを促進するための村民・U ターン卒業生交流拠点利用者数	0	0	4,000

※数値は、対前年度比増加分

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

おといねっぷ美術工芸高等学校の卒業生を U ターンさせ、移住・定住に

繋げる環境を整えるため、働く場の確保、働く場づくり支援、起業化を推進する。また村民と U ターン卒業生の交流を促すとともに、U ターン者による活動の活性化に資するため、活動拠点となる施設を整備し、また施設活用を通じて地域力の維持・強化を図ることを目的として、地域づくりマスタープランを策定しこれを実行するための人材を確保、育成することで、持続可能な地域づくりを実現する。

## 5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業 地方創生推進交付金（内閣府）：【A3007】

### ① 事業主体

北海道中川郡音威子府村

### ② 事業の名称：おといねっふ美術工芸高等学校卒業生移住定住 U ターン促進事業

### ③ 事業の内容

「木材工芸」を軸とした働く場づくりや企業化支援として、木材工芸の事業化に関し知見を有する専門機関からの助言を受けた事業実施や、制作施設の整備といった取り組みを行うとともに、「介護・保健福祉の複合施設への就職支援」に取り組むなど、「働く場」を確保することで U ターン者の移住・定住を促進する。併せて、村民と U ターン卒業生の交流を促すとともに、U ターン者による活動の活性化に資するため、活動拠点となる施設を整備し、また施設の活用を通じて地域力の維持・強化を図ることを目的として、地域づくりマスタープランを策定し、これを実行するための人材を確保・育成することで、持続可能な地域づくりを実現する。

U ターン促進の取り組みについては、地域関係者による協議会を組織し、移住相談会の実施に取り組むほか、卒業生を対象とした「アートインレジデンス事業」（作家が地域に滞在し作品制作を行う美術工芸展覧会）を開催することにより PR を図るなど、地域の特性を活かした U ターン促進事業を展開する。

### ④ 事業が先導的であると認められる理由

#### 【自立性】

・卒業生を集めた美術工芸展覧会の「観覧料」及び出品作品の販売収入と、U ターン者と村民が交流を促進する拠点施設の使用料を自主財源とするが、U ターン者を将来にわたり移住・定住させていくための様々な課題に対して一定期間、村の一般財源の充当を要する。

#### 【官民協働】

・地域において、これまで高等学校の振興に深く関わりを持ったことがある村民有志からなる「おといねっふ美術工芸高等学校卒業生 U ターン促進協議会」を立ち上げ、卒業生の移住・定住を促進し、自立を促進する。また村

内の木材工芸製作及び販売を実施している団体と連携し、販路開拓、支援につなげる。更に、商工会による民間企業への就職支援、農業委員会や営農集団と連携した就農支援、社会福祉協議会と連携した地域複合型施設での就労支援に取り組む。

将来起業化を図る際に必要な木材工芸機械類の購入については、村の中小企業振興条例による支援と地元にある北星信用金庫音威子府支店からの融資を受けられるよう支援する。

#### 【政策間連携】

- ・ 地域資源である木材を活かした工芸振興の核となる高等学校における工芸科の設置と振興により、これまで輩出した多くの卒業生をUターンさせることにより、木材工芸の振興とUターン施策を連動させ、地域の活性化を図るとともに、平成29年度に運用開始となる「地域複合型施設（高齢者サービス付住宅を新設し診療所及び村保健福祉センターと併設する施設）において必要となる介護ヘルパー等の人材の確保を図り、高齢者福祉施策に資する。

#### 【地域間連携】

- ・ 北海道上川管内北部地域において、人口4,000人以下の町村に3つの町村立高等学校が存在する（村立おといねっふ美術工芸高等学校・町立幌加内高等学校・町立剣淵高等学校）。共通する重要課題である入学者確保及び進路開拓に関し、3町村の教育委員会を主体に連携し道内中学生を対象とした合同説明会を開催するなどの取り組みを行っており、今後においても連携を強化し、更に近隣の道立高等学校を加えた取り組みを進める。
- ・ 本村は道内最少、人口800人の村であるが、本年5月、人口が1,000人に満たない村が、全国7ブロックから集まり交流を深め、小さな村であることを活かした地域づくりを進めることで合意。その中で福島県桜枝岐村（ひのえまた）では日本を代表する伝統工芸品づくりが今なお行われていることから木材工芸分野における交流を促進し地域に新しい工芸分野の開拓を進める。

#### 【その他の先導性】

- ・ 北海道において、本村と同規模の自治体で村立高等学校を設置している村はない。そのこと自体が特色ある地域づくりを推進している証ではあるが、一方では道内最少人口の自治体でもある。継続的な入学者確保は若者人口の確保に直結し、地域の活性化につながる。また、今後において当該事業の推進により卒業生の地元定着化を図り、更なる若者定住人口の拡大を図る。

#### ⑤ 重要業績評価指標（KPI）及び目標年月

	平成29年3月末	平成30年3月末	平成31年3月末
Uターンした生徒数	1	2	2

木材工芸関係・地域複合型施設事業等に起業及び就職する卒業生徒数	1	2	2
卒業生の U ターンを促進するための村民・U ターン卒業生交流拠点利用者数	0	0	4,000

※数値は、対前年度比増加分

⑥ 評価の方法、時期及び体制

毎年度、3月末時点の KPI の達成状況を総務課地域振興室が取りまとめ、庁内組織である音威子府村まち・ひと・しごと創生本部会議で検証作業を行い、その後、産学金官労言からなる外部組織である音威子府村まち・ひと・しごと創生有識者会議（村商工会・農業委員会・村教育委員・村立高等学校・地区労・北星信金音威子府支店・音威子府町内会・咲来町内会・北海道新聞名寄支局）において実施した事業の検証を行う。

その後 6 月議会に報告し再検証実施、検証結果をまとめる。また必要に応じて音威子府村まち・ひと・しごと創生総合戦略や今後の事業に反映させるとともに、検証結果は村のホームページで公表する。

⑦ 交付対象事業に要する経費

- ① 法第 5 条第 4 項第 1 号イに関する事業【A3007】  
総事業費 12,450 千円

⑧ 事業実施期間

地域再生計画認定の日から、平成 31 年 3 月 31 日（3 か年度）

⑨ その他必要な事業

該当なし

5-3 その他の事業

- 5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置  
該当なし

5-3-2 支援措置によらない独自の取組

(1) おといねっふ美術工芸高等学校運営事業

事業概要：学校紹介及び生徒確保に係る道内の中学校を訪問、37年間継続している札幌・旭川市での「木の手づくり展」の開催、また全国各地から入学希望者が訪れる一日体験入学等を行う。

実施主体：音威子府村教育委員会 おといねっふ美術工芸高等学校

事業期間：昭和 54 年度～（木の手づくり展）  
 平成 1 年度～（中学校訪問）  
 平成 12 年度～（一日体験入学）

（2）高大連携事業

事業概要：北海道東海大学旭川キャンパスと連携調印後、同大学国際文化学部と調印。大学が持つ高い能力、特にデザイン力を学び工芸及び美術教育に活かすため行う。

実施主体：北海道東海大学国際文化学部 おといねっぷ美術工芸高等学校

実施期間：平成 25 年度～

（3）国際理解教育交流事業

事業概要：家具及び工芸デザイン等世界の最先端を進むスウェーデンのレクサンド高等学校と姉妹校提携し、互いに生徒派遣を実施し高い技術力を学び活かす。

実施主体：レクサンド高等学校おといねっぷ美術工芸高等学校

実施期間：平成 14 年度～

6 計画期間

地域再生計画認定の日から、平成 31 年 3 月 31 日

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7-1 目標達成状況に係る評価の手法

事業の KPI である U ターン卒業生者数、木材工芸関係・地域複合型施設事業等に起業及び就職した卒業生数、U ターン促進のための村民・U ターン卒業生交流拠点施設利用者数について実績値を公表する。また産学金官労言からなる外部組織である音威子府村まち・ひと・しごと創生有識者会（村商工会・農業委員会・村教育委員・村立高等学校・地区労・北星信金音威子府支店・音威子府町内会・咲来町内会・北海道新聞名寄支局）により、事業の結果を検証し、改善点を踏まえて次年度の事業手法を改良する事とする。

7-2 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

	平成 29 年 3 月末	平成 30 年 3 月末	平成 31 年 3 月末
U ターンした生徒数	1	2	2
木材工芸関係・地域複合型施設事業等に起業及び就職する卒業生徒数	1	2	2
卒業生の U ターンを促進するための村民・U タ	0	0	4,000

ーン卒業生交流拠点利 用者数			
-------------------	--	--	--

※数値は、対前年度比増加分

### 7-3 目標の達成状況に係る評価の公表の手法

目標の達成状況は検証後速やかに音威子府村のホームページで公表する。